

## —牧師室から—

出エジプト記から読み始めた「旧約を読む会は」申命記まで読み終えた。創世記から申命記までのモーセ五書はモーセが書いたと言われていた。ところが、フランスのある医者が、申命記の最後にモーセは死んだと書かれている、死んだモーセがなぜ書いたのかという疑問から聖書の批評的研究が始まったらしい。

私は高校生になって、初めて聖書を読んだ。聖書はあまりに矛盾が多すぎ、そのまま受け入れるということはできなかった。諸々の本の中の一冊として読んだ。しかし、聖書記者たちは彼らの記述を通して強烈に訴えている。彼らは人間を超越する神と、罪にうごめく人間を鮮やかに対比させている。この神と人間の関係を問いつける聖書に目を見張った。高く深い立体的な世界を知らされ、その時の感動が私の求道の出発であった。

出エジプトは紀元前13世紀、エジプトの奴隷から解放されたイスラエル民族の原点になった出来事である。しかし、聖書はその

時代に書かれたものではなく伝承されたものを、数世紀後に編集したものである。それは必然的に編集した時代背景から出エジプトが再解釈されている。

出エジプトは大変な苦難であったが、奴隷からの解放という、とてつもない喜びであった。当然、神による自由と自立への高らかな賛美、告白へと導かれた。ところが、聖書が編集された時代は他国の脅威と占領にさらされ、異教の神々(偶像)が侵入し、頭を垂れることが要求された。偶像礼拝は他国の権力に屈従する奴隷化であった。聖書記者たちはこの奴隷化に対し、出エジプトという「人間回復」の原点に立ち返れ、自由と自立、そして奴隷の時に味わった「社会的弱者」を顧み給う神の憐れみを忘れるな、と語りかけた。

今日、このメッセージは何より新鮮に聞える。「わたしのほかに神はない。わたしは殺し、また生かす。わたしは傷つけ、またいやす。わが手を逃れうる者は、一人もない」。この神の手の中で私たちは「人間」になり得る。

# 週 報

1996年5月26日 聖霊降臨節第1主日

聖霊降臨日(ペンテコステ)礼拝

巻17

8号

1996年度教会主題

「キリスト告白に生きる」

聖句 イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

マタイによる福音書 16章15節～16節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. キリストを証しする。

日本キリスト教団

## 横浜港南台教会

〒234 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

FAX 045-833-6616

振替 00290-4-13994

牧師 秋吉隆雄